

太地町森浦地区における道の駅等整備検討調査

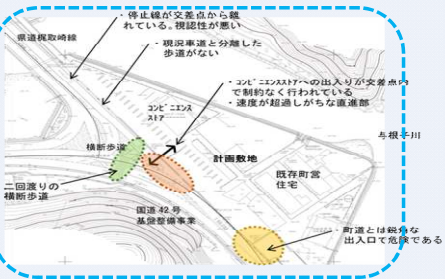
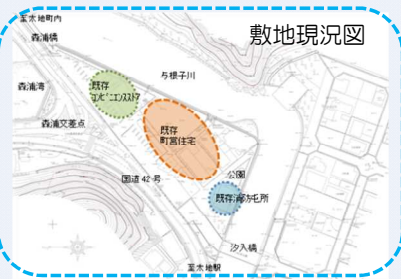
調査の背景と目的

- 本町では、平成22年度より「森浦湾鯨の海構想」について有識者による委員会での議論を行ってきた。同構想は、①世界屈指のくじら学術研究のメッカづくり、②くじらと多くの人々とのふれあいと癒しの場づくり、③裾野の広い地域振興の場づくりといった、国際的意義と地域振興の達成を目的としたプロジェクトである。
- 平成25年度には「森浦湾鯨の海計画」を策定し、構想から計画へと移行し一部実践の段階に来ている。
- 当初より森浦湾鯨の海の玄関口であり、インフォメーション機能を担う、各資源や施設を結びネットワークするハブ機能を持つべき場として位置付けられていたところ、地域振興施設（道の駅）として整備する方向が決まったため、施設整備に向けての基本的な調査を行った

調査の成果

○道の駅整備予定地における敷地条件整理のための課題整理

施設整備予定地である国道42号交差点部の現況調査を行い、課題を抽出した。（以下結果概要図）



森浦交差点付近の問題点課題整理図

○住民との意見交換による結果を基に地域振興施設の内容を抽出、施設配置計画を検討

地域振興施設（道の駅）設置へ向けての住民意向調査及び観光客を対象としたアンケート調査を実施すると共に、漁協を中心とした関係住民による横断的な意見交換を行った

【意見】

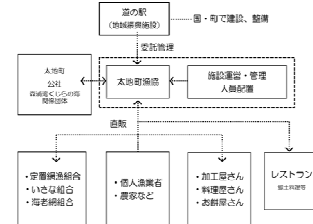
1. 水産加工と漁師は一心同体。共に元気を取り戻したい
2. 太地特有の水産資源と加工技術を活かしたい
3. 跡取りがいない。活気が戻れば跡取りもできるだろう
4. 売り物にならない、低未利用資源の農水産物がある
5. 生産者が直接販売できる売場が欲しい
6. 観光客が分かりやすく移動できる情報提供の場がない
7. 観光客が土産物を買う場所が分かりづらい
8. 気軽に立ち寄ることのできる居場所がない

【地域振興施設内容】

1. 太地特有の水産資源と加工技術を活かせる場をつくる
→水産物・農産物の直売所
2. 個人の力を結集して、力を奮える場をつくる
→地場産物による食堂、厨房、水産物・農産物加工室
3. くじらの海の資源を最大限に活かした場をつくる
4. 誰でも気軽に立ち寄ることのできる場をつくる
→インフォメーション・情報発信、交流広場

○課題整理（組織体制の検討）

→地域振興施設整備に向けての組織体制づくりが重要



人材育成と組織体制づくり（案）

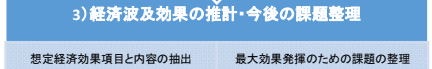
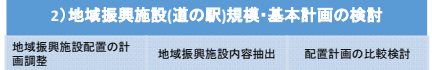
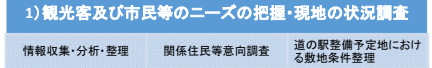


施設配置計画の検討（ブロックプラン）案A



施設配置計画の検討（ブロックプラン）案B

調査の手順



基盤整備の見込み・方向性

当該施設は、国交省事業である道の駅（駐車場・トイレ・情報発信施設）との密接不可分の関連を有した地域振興施設として町が事業主体となって、関係機関と調整を図りながら事業化の準備を進めているところである。当該施設と一体的な事業として町が位置付けている「森浦湾鯨の海計画」についても当該施設の活用計画と歩調を合わせて段階的に調整を図りながら事業化を進めている。
平成27年度・・・実施設計
平成28年度・・・施設工事
平成28年度末・・・供用開始予定

今後の課題

現在、本調査主体でもある太地町及び太地町漁協を始め、関連事業の同時進行を目指して関係機関の調整を図っている。官民連携の主体である町と漁協が共に地域振興機能を発揮していくために必要不可欠な「サポーターとしての生産者」、「生活者である町民」との協働体制の確立が課題であり、本施設の成功の鍵を握っている。

太地町森浦地区における道の駅等整備のための 基盤整備検討調査			
調査主体	和歌山県東牟婁郡太地町		
対象地域	和歌山県東牟婁郡太地町	対象となる 基盤整備分野	道路

1. 調査の背景と目的

森浦地区における道の駅等整備が検討される背景には、「森浦湾くじらの海計画」がある。本町では、平成18年に「太地町くじらと自然公園のまちづくり」構想を策定して以降、まちづくり施策の重要テーマのひとつとして取り組んできた経緯がある。

特に、平成22年度からは、町内外の有識者による「森浦湾くじらの海構想検討委員会」を立ち上げ、構想のあるべき姿について議論を継続してきた。また、その間、県、水産庁をはじめ各省庁のソフト、ハード事業及び町単費を活用して、構想を支えるしくみづくりやすぐに着手可能なハードづくりに関し、自助、共助、公助の観点から着実に進めてきた。

このような経過を経て、現在、森浦湾くじらの海構想は、町内外に広く認知されると同時に、構想の段階を脱し、計画から一部実践の段階に来ている。

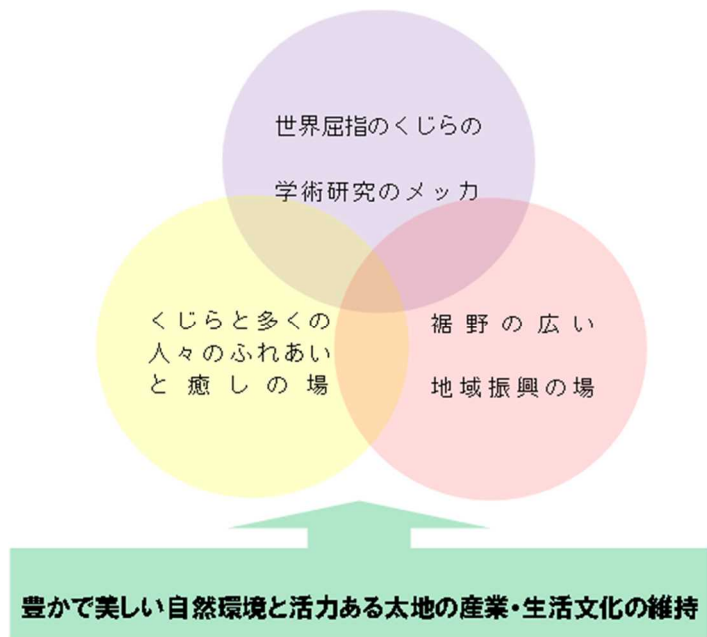
本計画は、単体としての交流や地域振興施設という意義や役割にとどまらない、森浦湾くじらの海という更に大きな地域おこしの構想のゲートウェイ、あるいはパイロット事業としての位置付けと期待を有するものである。



森浦湾くじらの海構想は、あるがままの豊かで美しい自然環境を大切にしつつ、太地の先達から今に受け継ぐ「くじら」を最大限に活かした、①世界屈指のくじら学術研究のメッカづくり、②くじらと多くの人々とのふれあいと癒しの場づくり、③裾野の広い地域振興の場づくりといった、国際的意義と地域振興の達成を目的としたプロジェクトである。

そして、下図に示すようなイメージが町民及び行政に共有され、全体マスタープランを構成する個々の資源や施設の整備を、段階的に着手していこうという機運が醸成してきた。

そのような時期に、当初より森浦湾くじらの海の玄関口であり、インフォメーション機能を担う、各資源や施設を結びネットワークするハブ機能を持つべき場として位置付けられていたのが、まさに今回の道の駅整備対象地である国道42号と太地に入る県道との分岐点である。



森浦湾くじらの海を基地とした、活力ある自然とくじらのまちづくり将来構想図
 一 鯨を愛で、育て、活かし、共に歩み、共に学ぶ

図一 森浦湾くじらの海イメージと本検討調査対象の位置付け

2. 調査内容

(1) 調査の概要と手順

下記の調査概要に基づき、①観光客及び市民等のニーズの把握・現地の状況調査、②地域振興施設(道の駅)規模・敷地利用計画の検討、③経済波及効果の推計・今後の課題整理の3つの柱の調査・検討を実施した。

1) 観光客及び市民等のニーズの把握・現地の状況調査

- ① 既往観光客数・交流客数及び交通量調査の情報収集・分析・整理
- ② 関係住民等意向調査
- ③ 道の駅整備予定地における敷地条件整理



2) 地域振興施設(道の駅)規模・基本計画の検討

- ① 道の駅及び地域振興施設配置の計画調整
- ② 地域振興施設内容の抽出
- ③ 配置計画（ブロックプラン）の比較検討



3) 経済波及効果の推計・今後の課題整理

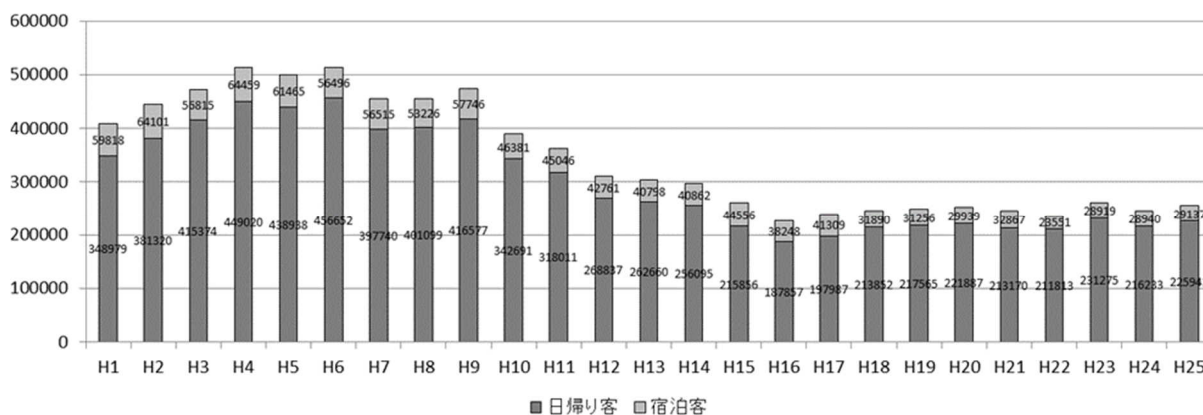
- ① 想定経済効果項目と内容の抽出
- ② 最大効果発揮のための課題の整理

(2) 調査結果

1) 観光客及び市民等のニーズの把握・現地の状況調査

① 既往観光客数・交流客数及び交通量調査の情報収集・分析・整理

・平成元年からの太地町の入込観光客数の推移をみると、平成6年の約51万人をピークに平成9年に約47万人に一時回復したものの、その後は緩やかな減少傾向にあり、平成25年現在は25.5万人で、過去25年間ピーク時の約半数に落ち込んでいる。25万人規模入込観光客規模のじり貧状態は、平成15年以降この10年間続いており、このままでは25万人規模が定着し兼ねない状況にある。一方、平成25年の宿泊客数は約3万人(宿泊率11.4%)で、平成4年の宿泊客6.5万人程が最大で、最近5年間は宿泊率10%前後で推移している。これは、町内に規模の大きな宿泊施設がないことと、近接して南紀の宿泊観光拠点都市である那智勝浦町(商工会が同じ)が控えており、連携した観光振興に取り組んでいることもその一因と想定される。



図一太地町の日帰り・宿泊別観光入込客数の推移と規模

- ・太地町の入込観光客のうち、独自の資源を活用した交流観光客数規模は、町立鯨の博物館利用者(昭和44年設立。最盛期は40万人の来訪者があったが現在は9万人規模)を始め、畠尻湾

海水浴場を活用した「鯨に会える海水浴場」が2万人規模、森浦湾を舞台として近年取り組まれるようになった「シーカヤック事業」600人等があり、いずれもユニークで独自性のある取り組みながら、企画の再編が必要な時期を迎えている。

表一 太地町の総入込観光客数及び主要な交流客数の推移と規模

	年次	総数 (人)	日帰り・宿泊客の別(人)		宿泊率 (%)	内数			備考
			日帰り客	宿泊客		くじらの博物館	くじらの浜海水浴場	シーカヤック	
1	平成元年	408,797	348,979	59,818	14.6	312,900			
2	平成2年	445,421	381,320	64,101	14.4	346,453			
3	平成3年	472,189	415,374	56,815	12.0	380,213			
4	平成4年	513,479	449,020	64,459	12.6	413,713			
5	平成5年	500,403	438,938	61,465	12.3	387,645			
6	平成6年	513,148	456,652	56,496	11.0	370,359			
7	平成7年	454,255	397,740	56,515	12.4	351,010			
8	平成8年	454,325	401,099	53,226	11.7	334,429			
9	平成9年	474,323	416,577	57,746	12.2	339,691			
10	平成10年	389,072	342,691	46,381	11.9	278,382			
11	平成11年	363,057	318,011	45,046	12.4	239,911			
12	平成12年	311,598	268,837	42,761	13.7	212,405	5688		
13	平成13年	303,458	262,660	40,798	13.4	206,994	4592		
14	平成14年	296,957	256,095	40,862	13.8	189,711	5105		
15	平成15年	260,412	215,856	44,556	17.1	172,832	5185		
16	平成16年	226,105	187,857	38,248	16.9	159,929	5189		
17	平成17年	239,296	197,987	41,309	17.3	157,034	6211		
18	平成18年	245,742	213,852	31,890	13.0	150,722	5652		
19	平成19年	248,821	217,565	31,256	12.6	144,630	4491		
20	平成20年	251,826	221,887	29,939	11.9	145,018	8896		
21	平成21年	246,037	213,170	32,867	13.4	141,768	10181	0	
22	平成22年	235,364	211,813	23,551	10.0	120,392	19935	207	
23	平成23年	260,194	231,275	28,919	11.1	94,015	12439	549	
24	平成24年	245,173	216,233	28,940	11.8	90,320	17760	809	
25	平成25年	255,078	225,941	29,137	11.4	87,175	19092	595	H26 シーカヤックが870人に増加
増減	H25/H20	1.01	1.02	0.97	2.03	0.60113227	2.14613309		
	H25/H15	0.98	1.05	0.65	2.03	0.50439155	3.68216008		
	H25/H10	0.66	0.66	0.63	1.31	0.31314884			
	H25/H5	0.51	0.51	0.47	1.02	0.22488359			
	H25/H1	0.62	0.65	0.49	1.27	0.27860339			
平均	最近5年	248,369	219,686	28,683	11.5%	106,734	15881.4	432	
	最近10年	245,364	213,758	31,606	12.9%	129,100.3	10984.6		
	最近20年	313,712	273,690	40,022	12.8%	199,336.35	9315.42857		

- ・道の駅整備予定地は、国道42号と県道240号（梶取崎線）の交差点（森浦交差点）付近となり、平成27年度に那智勝浦新宮道路太地ICが整備予定であり、県内、周辺府県からの来訪者増加が期待される地域である。調査対象地点の国道42号線の自動車及び自転車、歩行者交通量は以下の通りである。

表一 交通量調査の概要総括表

項目		検討条件	備考
自動車 交通量	実測値	<ul style="list-style-type: none"> ・12,275 台/ 日 ・小型車：11,406 台/ 日 ・大型車：869 台/ 日 ・昼間12時間ピーク率：10.3% ・昼夜率：1.21 	H22 交通センサス
自転車・歩行者交通量		<ul style="list-style-type: none"> ・歩行者：6人/ 12h ・自転車：45台/ 12h 	H17 交通センサス (浜の宮～森浦)
周辺地形		・当該区間には、一部急峻な斜面があるが沿岸部の平地に集落が点在している	

②関係住民等意向調査

平成26年度に、太地町では道の駅設置へ向けての住民意向調査及び観光客を対象としたアンケート調査を実施すると共に、漁協を中心とした関係住民による横断的な意見交換を行った。

・アンケート調査結果の概要

1. 海水浴場 「くじらに会える海水浴場」 アンケート調査	
総括	<ul style="list-style-type: none"> ○最大の特徴は、くじらと泳げるのは全国でここだけである ○自然の地形、環境を最大限に活かした海水浴場 ○安心、安全な水遊び環境への配慮
良い点	<ul style="list-style-type: none"> ・くじらを目当てに訪れる人の評価は高い（※イルカと触れ合える所は他所にもあるが、くじらはここだけ） ・小さな子どもが初めて体験する海としても安全性が高く安心感には定評がある。 ・環境が素晴らしい。自然環境を最大限に活かしている仕掛けが遠方からの来訪者にも好評であり、リピーターもある。 ・町整備の駐車場、更衣室、トイレは衛生的な上、無料で使用することができ、好評を博している。
課題点	<ul style="list-style-type: none"> ・シャワーの設備は良いが夏でも寒い時期がある為、温水が使用できると良い。 ・足洗い場が欲しい。 ・全体のシステムが分かりづらい。事前情報がなくても、くじらと泳げる時間等の案内が分かるような仕組みが欲しい。 ・飲食できる場がない（町内で食べたり、土産を購入する場の情報が無い）。 ・コインロッカーが欲しい。
対応策	<ul style="list-style-type: none"> ・シャワー設備には、設置コストやランニングコストの負担が伴うことから、現状のような無料サービスを続けることで町財政の負担が過大になる事が懸念される。（既往の施設管理費や安全性確保対応等にも諸経費は掛かっている） ・駐車場、シャワー設備の使用料、入場料等、部分的に有料化を図ることは、当海水浴場の来訪者にとっても質の向上と継続的な運営のための理解を得られると考えられる。又、アンケートの個人意見でも同様な提言がある。 ※アンケート調査の考察で、利用者と利用料の収支を概算。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・温泉が近くにあれば立ち寄りしたい。 ・町内にインフォメーションや案内が欲しい：国道、県道からの海水浴場 道案内、買い物、トイレ、駐車場事情等 <p>※海水浴場周辺の情報を得られる条件があれば「町内で買い物ができる」、「駐車場がある」等の出かける前の心配事から解消され、出かけやすい対象地となる。</p>

2. 本気の朝市参加者アンケート調査	
総括	<ul style="list-style-type: none"> ○海の近くの朝市で期待されるのは鮮魚や水産加工品 ○太地ならではのくじらの加工品にも興味が集まる ○定番のお目当てが楽しみで繰り返し足を運んでいる
良い点	<ul style="list-style-type: none"> ・イセエビ汁、フィッシュバーガーが目当てのリピーターが多い。 ・地元の水産物が手に入る。 ・生産者が販売しているので安心して買い物ができる。
課題点	<ul style="list-style-type: none"> ・夏暑く、冬寒い屋外での過ごし方、時間設定には配慮が必要。 ・生鮮品を扱うのであれば、夏は早い時間の設定の方が良い。 ・飲み物の販売がない：冷たいもの、温かいものを販売できれば体温調整も可能。出店メニューの再考が必要。 ・その場で食べられるもの、購入して帰宅後すぐに食べられるものが必要。 ・鮮魚も良いが、干物やブロック、フィレ、切身等は扱いやすい為、要望が高い。 ・水産物、農産物、加工品の内容、品数を充実させて欲しいという要望が多く、「選びたい消費者」の心理を満足させられていない懸念があり、定期市の生命線であるリピーターを育てるには、改善の必要性、優先順位が最も高い取り組みである。 ・セリ市は場に活気が出て良い効果を得られるが、参加の方法が分からない、相場を知らない等、初心者には取り組みにくい様子である。 ・くじらや鮮魚を目当てとした来訪者には少し物足りない様子。
対応策	<ul style="list-style-type: none"> ・定期市としても売上を伸ばすための工夫は随所にあることをアンケート個人意見から読み取ることができる。 ・開催時期を考慮した出店メニューの構成や、来訪者が求めるものの絞り込み、鮮魚等を持ち帰る為の配慮（施氷用の氷サービス等）がリピーターを育てることにつながる

	るのではないか。
その他	<p>[道の駅で展開する直販施設機能の考え方]</p> <p>※詳細には、地域振興局保健所との事前協議が必須</p> <p>①地場鮮魚の販売に伴うサービスと施設機能の関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鮮魚丸ごと購入（直販施設、冷蔵ケース） ・鮮魚をおろしてもらう（直販施設、荒おろしができる加工室） ・鮮魚を刺身にする（直販施設、荒おろしや、刺身加工が可能な加工室） <p>②地場水産物の加工品販売</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内加工業者からの仕入れ、販売→加工品そのものの販売の他、食堂での利用、惣菜の材料として利用することにより、消費量の増加を狙う ・地場水産、農産物の惣菜販売（惣菜調理加工室） ・弁当製造→対象者（観光客、高齢者福祉目的等）により調理設備が異なるが小規模であれば惣菜調理加工室での調理も可能と思われる。

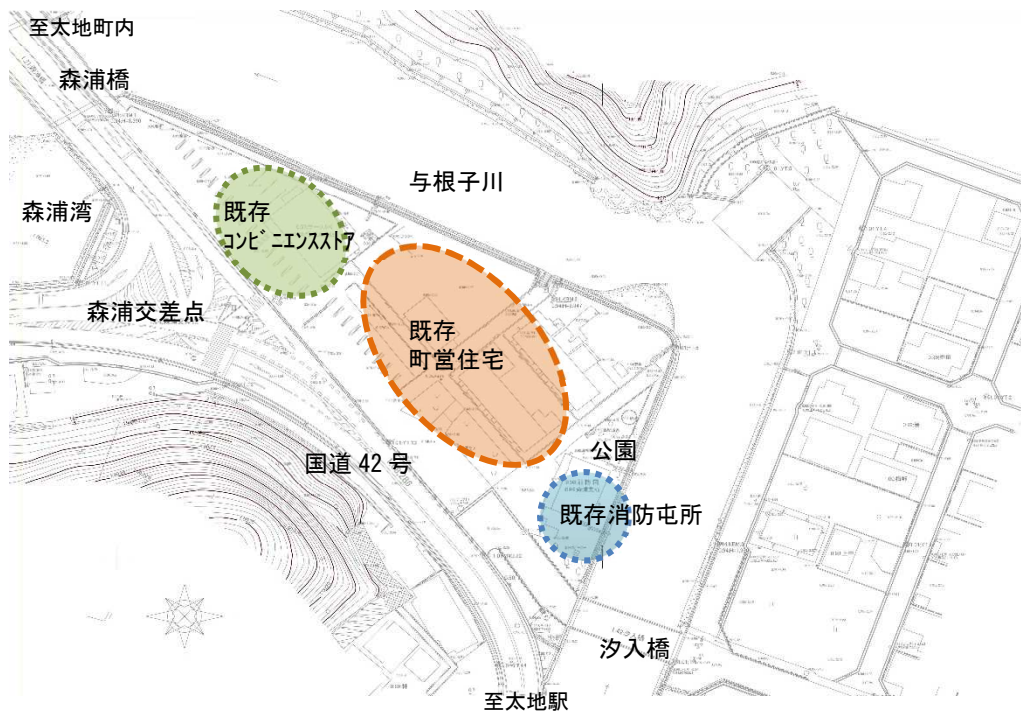
・住民意見交換の概要

●住民意見交換会 「道の駅で取り組みたいこと」に関する意見	
総括	<ul style="list-style-type: none"> ○水産加工と漁師は一心同体。共に元気を取り戻したい ○太地特有の水産資源と加工技術を活かしたい ○個人の力を結集して直販に取り組む
漁業と水産加工振興	<p>水産加工と漁師は一心同体。共に元気を取り戻したい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、水産加工業は元気がない。加工業の元気がなくなると漁師も元気がなくなる。活気を取り戻したい ・跡取りもいない。活気が戻れば、跡取りもできるだろう
くじらをはじめ太地独自の食文化	<p>太地特有の水産資源と加工技術を活かしたい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元の人しか知らない、一般に流通していない特別な水産資源が沢山ある ・季節の磯ものなどで作る惣菜は店で食べるのでできない家庭の味 ・くじらの加工には太地伝統の味がある。さまざまな部位を余すことなく活かしている ・くじら肉の入る惣菜やくじらのホルモンは、太地を代表する味覚である ・手軽に食べられる地場産素材のファストフード「買って帰ってすぐに食べられるもの」「買い食いできるもの」を考案したい ・資源の持続的な利活用のためには季節感や限定数量等の付加価値を上手に取り込みながら資源管理に取り組んでいきたい
個々の漁業者農業者の協力	<p>個人の力を結集して直販に取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定置網漁業では売り物にならない鮮魚がある ・廃棄処分をしている農作物がある ・漁協スーパーと道の駅、それぞれの特徴づくりが大切 ・購入してすぐに食べられる工夫を考える。「浜焼き」バーベキューや素材を持ち込んで調理してもらえる海のレストランなど ・生産者が直接品物を販売できる売り場が欲しい。 ・農業は、勝浦等周辺地域とも連携していきたい。(希望者は朝市等にも出店している)
漁協の積極的取り組み	<p>漁協で食堂に取り組んでみたい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・店で異なるくじら加工品を味わってほしい ・ここにしかない、ここでしか食べられない物を提供したい ・地場の資源を活かした、おいしく手軽に食べられるスローフード開発に取り組むたい ・産地のメリットを活かして、活魚をその場で調理して食べるのできる海の食堂をつくる
分かりやすく気軽に	<p>誰でも気軽に立ち寄ることのできる居場所がない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お土産を購入するわかりやすい場所がない ・まちの中を安全に、分かりやすく、楽しく移動できる歩道や居場所づくりが必要

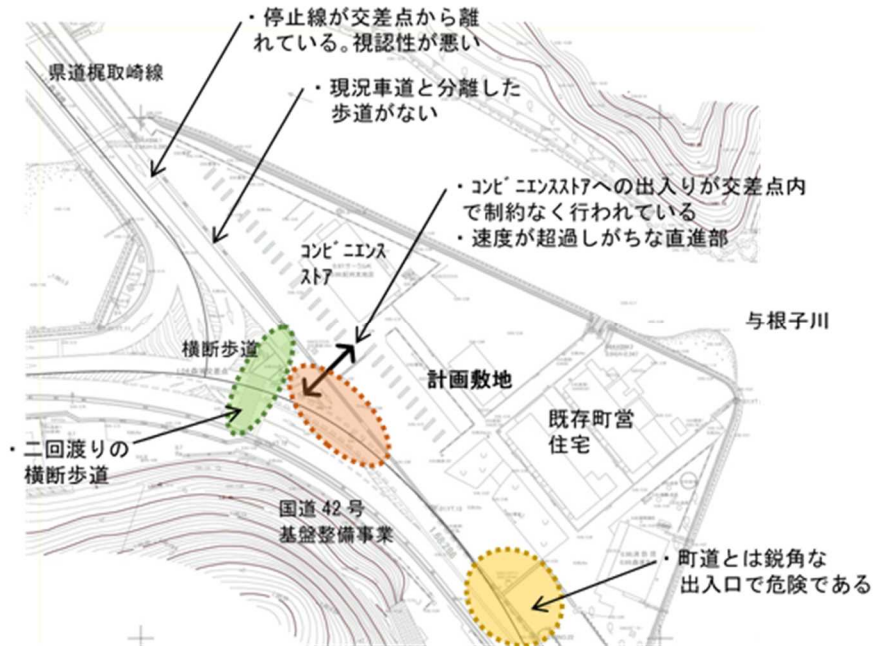
③道の駅整備予定地における敷地条件整理

国道42号太地町森浦交差点付近を敷地とする「道の駅」は、国道の平面曲線半径が厳しく、さらには交差する県道梶取崎線との交差点がY型カーブを形成しており、道路の主従関係が明確になっていない問題を有している。

当該交差点は太地町の入口に位置し又、前面に森浦湾の展望が開ける立地であることから、町で現在進行中の「森浦湾くじらの海計画」における拠点施設整備として、くじらを中心とした観光拠点ゲートウェイ及び道の駅の設置計画を進めているところである。



図一敷地現況図



図一森浦交差点付近の問題点・課題整理図

2) 地域振興施設(道の駅)規模・基本計画の検討

①道の駅及び地域振興施設における現状課題

【太地町 道の駅及び地域振興施設における現状課題の意見出し】

1. 水産加工と漁師は一心同体。共に元気を取り戻したい
2. 太地特有の水産資源と加工技術を活かしたい
3. 跡取りがない。活気が戻れば跡取りもできるだろう
4. 売り物にならない、低未利用資源の水産物、農産物がある
5. 生産者が直接販売できる売り場が欲しい
6. 観光客が分かりやすく移動できる情報提供の場がない
7. 観光客が土産物を買う場所が分かりづらい
8. 気軽に立ち寄ることのできる居場所がない



②地域振興施設内容の抽出

【太地町 地域振興施設整備の目的】

1. 太地特有の水産資源と加工技術を活かせる場をつくる
 - ・ 地元には知られていない一般に流通していない水産資源を体験できる場をつくる
 - ・ 季節の磯ものなどをつくる、地域の家庭の味を体験できる場をつくる
 - ・ 太地伝統のくじら加工の味と技術を体験できる場をつくる
 - ・ 地域の水産物を手軽に食べられる加工品を開発する



1. 水産物・農産物の直売所

2. 個人の力を結集して、力を奮える場をつくる
 - ・ それぞれの得意分野で力を奮える場をつくる
 - ・ 低未利用資源の水産物、農産物を活用する
 - ・ 生産者が直接販売できる直販施設をつくる



2. 地場産物による食堂、厨房

3. 水産物・農産物加工室

3. くじらの海の資源を最大限に活かした場をつくる
 - ・ 森浦湾のくじらを中心とした観光、体験学習の拠点としての窓口をつくる
 - ・ 森浦湾や周辺の景観を活用した自然に囲まれた居場所をつくる

4. 誰でも気軽に立ち寄ることのできる場をつくる
 - ・ 観光客、地域住民、幅広い年齢層が集まることのできる場をつくる
 - ・ 太地町の情報発信の拠点をつくる



4. インフォメーション・情報発信

5. 交流広場

③配置計画（ブロックプラン）の比較検討

<p>A案</p> <p>中央に広場 配置案</p> <ul style="list-style-type: none"> 中央に広場を配置し、建物周囲を取り囲む計画案である。 トイレ、情報（国交省）エリアをまとめて配置していない コンビニが奥の配置となるので、トイレと配置交換も考えられる。 広場と地域振興施設の直販等を連続して使用できる。 	
<p>B案</p> <p>小広場+中庭 配置案</p> <ul style="list-style-type: none"> 中央に中庭配置、周囲を半外部の廻廊で囲み、回遊性を高める案である。 情報、トイレ（国交省）をまとめて配置する。 コンビニが駐車場から離れることになる。 広場と地域振興施設の直販等を連続して使用できる。 	
<p>C案</p> <p>2つの連続する広場 配置案</p> <ul style="list-style-type: none"> 二つの廻廊に囲まれた広場を連続して配置する案である。 手前の広場は賑わいの場として、奥の広場は対岸の山を眺める等、くつろぎの場として特徴をつくる。 コンビニが駐車場から近く、利便性が高い 広場手前の駐車場が利用しやすい配置となる。 	

3) 経済波及効果の推計・課題整理

①想定経済効果項目と内容の抽出

本調査時点で想定した経済波及効果と、間接的経済効果を要約すれば、以下のとおりである。今後、計画、取り組みの内容や企画の充実により、経済的な刺激効果が十分算定可能になる可能性がある。

表一 想定効果の考え方の総括

効果区分	効果項目	効果の内容・効果額等
1 経済波及 効果 (暫定)	① 農林水産物 販売促進効果	・自給用農業あるいは、市場に乗っていなかった芋類、柑橘類（ポンカン）、花卉、野菜等の地場流通効果 ・地元加工用、地元漁協スーパー用水産物地場流通量に加え、交流観光客の直販、レストラン原材料供給用の販売量の増加効果
	② 地域関連産業 波及効果	・交流人口の増加と当該施設の情報発信と誘導力の発揮に伴い、既存の太地独自の体験交流事業（シーカヤック）や施設（鯨の博物館）の利用者数の増加に伴う売上高の向上
	③ 地域就業機会 増加効果	・当該施設の運営管理に必要な正職員、常勤・非常勤パート等の最低想定就業雇用機会創出想定から算出した雇用賃金創出額
2 間接的 経済効果 (暫定)	現時点では、当該施設の企画運営等が最終決定していないため、効果を定量化できないが、以下のような経済的波及効果も期待できるものと考えられる。 ①新産業創出効果（交流人口の増加を契機とした地場産品等を活用した食品・特産品等加工品製造他新たな産業創出）と新規雇用機会の創出の可能性 ②交流人口の増加による宿泊客の増加（那智勝浦町との分担と町内既存宿泊施設の稼働率向上、民宿の再生等） ③高齢化地域コミュニティ活性化（高齢世帯を招く食事会の企画等） ④太地町のイメージアップ（森浦湾くじらの海との連携） ⑤その他	

②最大効果発揮のための課題の整理

太地町森浦地区における道の駅等の施設整備が最大効果を発揮するための主要な課題は、端的に言えば、「道の駅と森浦湾くじらの海との相互補完と連携体制の構築」、「さまざまな地域活性化効果（経済効果、雇用効果、にぎわい創出、交流・定住効果など）を推進し具現化する人と体制づくり」に集約される。

②-1 森浦湾くじらの海計画との相互補完と連携体制の構築

当該施設は、森浦湾くじらの海計画マスタープラン検討の当初段階から、国道から森浦湾、太地町市街地にアクセスする県道に分岐する交差点に位置する「くじらの海への窓口ゾーン（誘いの場）」と位置付けてきた。

当該施設は、森浦湾くじらの海計画を構成する特徴的なエリアづくりを目指しており、訪れた人々を誘う機能を担うと同時に、森浦湾くじらの海全体の魅力に寄与することにより、当該施設の集客力や販売力を始めとした効果発現の最大化に繋げるものとする。

- ・森浦湾くじらの海計画マスタープランの中における当該施設の位置付け・意味の明確化
- ・森浦湾くじらの海計画マスタープランを構成する各施設・資源、ゾーンとの役割分担と相互補完関係の明確化
- ・当該施設が有すべきシンボル性の発揮とネットワークハブ（全体支援情報発信）機能の確保

②-2 さまざまな地域活性化効果を推進し具現化するための人材育成と組織体制づくり

施設の運営企画・管理には太地町、太地町漁協、森浦湾くじらの海関連運営主体及び活動団体、住民等町民総出で取り組んでいく。具体的な運営主体や施設の運営管理については、施設検討会を立ち上げ、具体的な施設内容の検討と同時に担い手の育成、確保を段階的に取り組み、組織体制づくりの構築を図る。

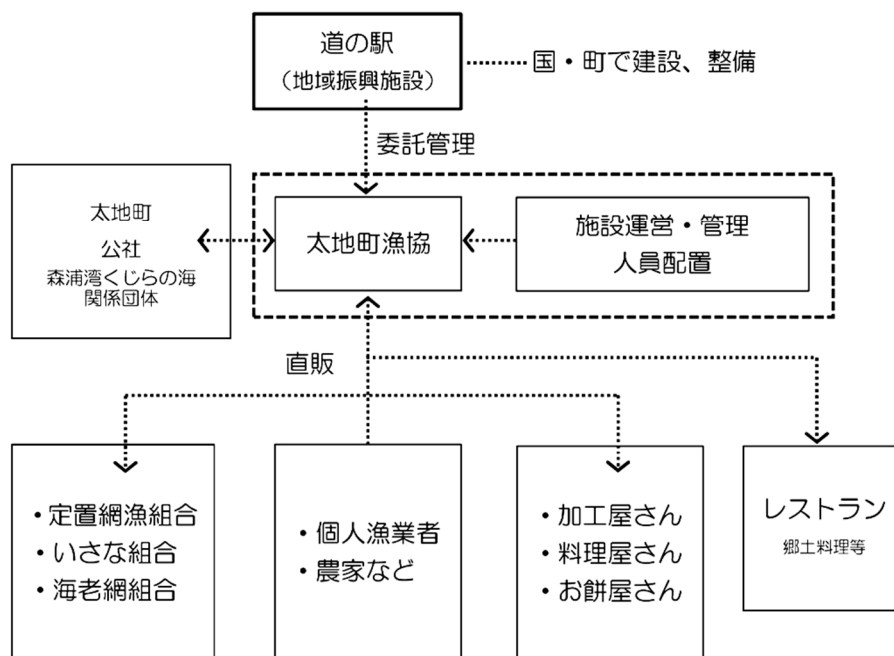


図-地域活性化効果を推進し具現化するための人材育成と組織体制づくり (案)

3. 基盤整備の見込み・方向性

当該施設は、国交省事業である道の駅との密接不可分の関連を有した地域振興施設として町が事業主体となって、関係機関と調整を図りながら事業化の準備を進めており、平成 27 年度に実施設計、平成 28 年度に施設工事を行い、平成 28 年度末に供用開始を目指す。

一方、当該施設と一体的な事業として町が位置付けている「森浦湾くじらの海計画」についても実験事業を手掛けるなど、当該施設の活用計画と歩調を合わせて段階的に調整を図りながら事業化を進めているところである。

4. 今後の課題

太地町森浦地区における道の駅整備のための基盤整備に向けては、現在、本調査主体でもある太地町及び太地町漁協を始め、関連事業の同時進行を目指して関係機関の調整を図っているところである。

地域振興施設については、太地独自のまちづくりや森浦湾くじらの海計画と歩調を合わせた“太地らしい”デザインと工法を構築しながら、官民連携の主体である町と漁協が共に地域振興機能を発揮していくために必要不可欠な「サポーターとしての生産者」、「生活者である町民」との協働体制の確立が課題であり、本施設の成功の鍵を握っている。

